

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引



社会価値創造に向けて サステナビリティ戦略の拡充を図る

日産自動車株式会社
専務執行役員
チーフ サステナビリティ オフィサー(CSO)

田川 丈二

社会ニーズに対応し、新たな取り組みを推進

日産は、サステナビリティ戦略「Nissan Sustainability 2022」において、環境、社会、ガバナンスの分野における活動を包括的に定義し、長期ビジョンとともに2018年から2022年度までの目標を定め、その達成に向けて取り組んでいます。2020年度は新型コロナウイルス感染症への対応を優

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

先し、従業員と地域社会の健康と安全を守ることに注力しつつ、「Nissan Sustainability 2022」で定めた目標に向かって、各部門がグローバルで活動を推進してきました。

2022年を目標年度とした戦略を策定して3年が経過しましたが、その間、

世界は大きく変化を遂げました。環境課題は年を追うごとに深刻化し、国家間の格差、国内における格差も広がっています。社会のニーズに対応していくために、当初計画した枠組みを超えて、新たな取り組みを推進していく必要性を強く認識しています。

カーボンニュートラル実現に向け、さらなる進化

日産は、環境理念「人とクルマと自然の共生」を掲げ、環境への依存と負荷を自然が吸収可能なレベルに抑え、自然資産を次世代に引き継ぐことを環境に対する基本的な考え方としています。この実現にむけて、2002年の中期環境行動計画「ニッサン・グリーンプログラム」策定以来、マテリアリティ(重要課題)を特定しながら進化を続けてきました。

そして、2021年1月に、2050年までにクルマのライフサイクルを通じてカーボンニュートラルを実現するという新たな目標を発表しました。その実現に

向けて、2030年早期より主要市場に投入する新型車をすべて電動車両へとシフトしていきます。

また、カーボンニュートラルだけではなく、新規採掘資源に頼らない材料への代替、製品や生産過程における取り組みを通じた大気品質向上、水資源への依存を減らすための水質管理や水使用量の削減なども順調に成果を上げています。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

人権課題への意識を高め、取り組みを強化

社会面においては、グローバルに広がるサプライチェーンを含めた人権への取り組みを強化しています。日産は、人種、国籍、性別、宗教、障がい、年齢、出身、性自認、性的指向、その他の理由に基づくいかなる差別や、サプライチェーンにおける強制労働や児童労働といった人権侵害を容認しません。2017年の「日産の人権尊重に関する基本方針」策定・発行後、2018年には人権の取り組みにおけるマテリアリティ分析を実施し、「従業員の労働環境」を人権の取り組みにかかわる重点分野の1つとして特定しました。また、2019年度の日産サウスアフリカ会社における従業員対象の人権インパクトアセスメントに続き、2020年度はタイ日産自動車会社およびそのグループ会社（日産パワートレイン（タイランド）株式会社、エス・エヌ・エヌ・ツールズ&ダイズ社）において同様のアセスメントを行いました。このアセスメントにおいて指摘を受けた項目について、現地が主体的にフォローアップ計画を策定し、実践することで継続的に改善を図っていきます。

コネクテッド、電動化、自動運転といった技術革新に伴い、お客さま情報のセキュリティも重要なテーマとなっています。グローバルに一貫したアプローチを適用するため、2020年に「カスタマープライバシーポリシー」を発行しました。このポリシーは、当社の個人情報保護に関するコミットメントやプライバシーに関する基本的な考え方について規定しています。



目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

刷新されたガバナンス体制も機能強化

日産は、コーポレートガバナンス体制を強化し、意思決定の透明性を向上させるために、2019年6月に指名委員会等設置会社へと会社の体制を変更しました。現在の取締役会は、議長ならびにメンバーの過半数が社外取締役の方で構成されており、執行と監督を明確に分離し、取締役会において、会社が進むべき方向性について、毎回活発で透明性のある議論が行われています。社外取締役の方は取締役会に加え、指名委員会、報酬委員会、監査委員会の場

でも、報酬や人事、業務執行の監査等、ガバナンスの強化と経営の透明性を確保するために、ご尽力をいただいています。

このような抜本的な改革を短期間で実現できたのは、取締役会も執行側も、再び日産を輝かせたいという共通の思いからです。経営戦略におけるサステナビリティの重要性も高まっており、経営層の業績評価にサステナビリティ視点での貢献度合いを加え、サステナビリティ課題への対応を強化していきます。

経営層にてESG戦略を活発に議論

私が議長を務めるグローバル・サステナビリティ・ステアリング・コミッティでは、「Nissan Sustainability 2022」の進捗状況や目標達成に向けての課題だけでなく、新たに顕在化してきた課題についても論議してきました。

環境面では、2050年カーボンニュートラル目標を公表したことで、社内の取り組みが一段と加速しています。

社会面への対応は、多くの関係部署を巻き込み、日産内のリージョン（地域組織）とも連携して進めています。社会課題は国や地域社会によって状況が異なり、日本の本社の考えだけで戦略を立て、計画を進めても現地の課題やニーズとの間にズレが生じてしまうことがあります。同コミッティの場で、ますま

す顕在化する社会課題に関して、関係者と忌憚ない論議をすることで、より実効性のある取り組みの策定や推進が可能となります。

また、日産が長期にわたりどのような価値を創出し、社会課題の解決・SDGs目標達成に貢献できるのかについて、アウトサイドインのアプローチを取り入れ、経営層の間で活発な論議を進めています。これまで、EVを活用したニューモビリティサービスなど将来に向けた新たな価値を提供してきましたが、会社のみならず社会のサステナビリティ推進に向けて、経営層および実務レベルでこれまで以上に深い論議が重ねられています。日産のサステナビリティに関する活動が、昨年より一段も二段も上のステージに入ったと実感しています。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

将来の成長のためにドライブをかける

環境や社会の課題は、今すぐ手を打たなければ、社会にとっても、会社にとっても取り返しのつかない重大なリスクとなります。2050年のカーボンニュートラル実現は、容易な目標ではありませんが、社会システムの存続と人類存亡の危機がかかっていると言っても過言ではありません。人権課題も迅速な対応が必要です。これに対して、日産の強みを生かして日産らしく応えていくことで、世代を超えた社会価値を創出できると考えます。

社会が大きく変革していく中で、企業への期待値も変容しています。短期的利益の追求から、長期的な価値創造が求められ、今まさに企業の真価が問われている時といえます。CSOとして、日産がどのように社会に貢献すべきかを考え、レジリエントな戦略を立て、リスクマネジメントを強化しつつ、ステークホルダーとの密接な対話を重ねながら、将来の成長に向けた種まきをしていきます。日産が社会とともにサステナブルに成長を果たし、その貢献を大いに期待され、必要とされる会社であり続けるために、今後も社内にドライブをかけていきます。

